

第2学年国語科学習指導案

単元名 「筆者になりきって文章を書き、読み合おう」 ～表現の工夫を読み取ろう～

教材名 「神奈川沖浪裏」(東京書籍 新しい国語2)

1 単元について

佐賀県の中学2年生の実態として、平成22年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、「読むこと」において課題が多いことが分かった。特に活用問題である「目的に応じて必要な情報を読み取り、自分のものの見方や考え方に生かす」ことについては、正答率が17.6%であり無解答率が29.4%という結果となった。この結果から、書かれている内容と書き方(表現の仕方)について意見をもたせるような学習経験の不足が課題として考えられる。

生徒は2年生になり、説明的な文章として「小さな労働者」を読んでいる。「フォトストーリー」という新たな表現手段を知り、教材文から読み取った内容を再構成して、短い文章と写真を効果的に組み合わせて表現するという言語活動に取り組んだ。この活動を通して、「目的に応じて必要な情報を読み取り、自分の考えをもつ」学習を行った。

本教材は、葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景」の作品の1つ「神奈川沖浪裏」の魅力を説明する文章である。今にも動き出しそうな迫力を伝えるために、筆者の視点は大波から舟、舟に乗っている人から富士山へと次々に移動する。さらに、仏様やお天道様という実際には描かれていないものへと広がりを見せる。また、文体は平易で親しみやすく、擬音語及び擬態語が効果的に使用されている。筆者のものの見方、感じ方、想像の広げ方を基に書かれた本教材は、文章の特徴を捉えて、その効果を実感する学習に適した教材であると考えられる。

本単元では、絵を説明する文章の表現の工夫を読み取り、その読み取りを生かして「富嶽三十六景」の他の作品を説明する「なりきり作文」を書くこと(C読むこと(2)イ)を言語活動として設定する。スモールステップで学習活動を明確にしているワークシート等の学習教材を用いることで、一人一人の言語能力に応じて言語活動を充実させるようにしたい。

2 単元の目標

- (1) 筆者の表現の仕方に着目して読み、考えを広げようとすることができる。
- (2) 文章の展開や表現の工夫を読み取り、効果や筆者の意図について考えをまとめることができる。
- (3) 目的に応じて、表現の工夫や展開に違いがあることを理解している。

3 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べる言語活動を通した指導[C読むこと(2)イ]		
1 目的意識をもって課題に取り組み、筆者の表現の工夫を自分の表現に生かそうとしている。	1 文章の展開に着目するとともに、表現の工夫とその効果について読み取り、根拠を明確にして自分の考えをまとめている。 【C読むこと(1)ウ】	1 目的に応じて、表現の工夫や展開に違いがあることを理解している。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)】

4 指導と評価の計画(全4時間)

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
1	1	<p>1 筆者になりきって北斎の「富嶽三十六景」の絵を説明するために、どのような読み方が必要なのか考える。</p> <p>2 学習計画を知り、見通しをもつ。</p> <p>3 教材文「神奈川冲浪裏」を読んで、教材文の表現の工夫を読み取る。</p> <p>4 チェックシートに回答して、身に付けたい力を具体的に認識させる。</p>	<p>○筆者になりきって文章を書くための読み方を確認し、【観点】を黒板に提示する。</p> <p>○形式段落ごとに担当グループを決め、短冊に書き出して黒板に貼らせる。</p>	<p>アー1 「なりきり作文」を書くための読みの観点を考えようとしている。【発言・学習計画表の記述】</p> <p>イー1 観点を明確にして文章を読み、表現の工夫を読み取っている。【ワークシート②の記述】</p>
2	2	<p>5 教材文の表現の工夫がもたらす効果について考え、全体で共有する。</p> <p>6 読み取った表現の工夫を絵に書き込んで、その効果を確認する。</p> <p>7 「なりきり作文」を書くための絵を選び、表現の工夫を書き込む。</p>	<p>○表現の工夫がもたらす効果について補足説明を行う。</p> <p>○擬音語、擬態語や視点の動きに着目させる。</p> <p>○選んだ絵に擬音語、擬態語や視点の動きなどを考え、書き込むよう指示する。</p>	<p>ウー1 目的に応じて、表現の工夫や展開に違いがあることを理解している。【ワークシート②の記述】</p> <p>イー1 教材文の表現の工夫とその効果を具体的に捉えている。【ワークシート③④の記述】</p>
	3	<p>8 赤瀬川氏になりきって「なりきり作文」を書く。</p>	<p>○教材文の表現を根拠に、想像力を働かせて書くよう心掛けさせる。</p>	<p>イー1 筆者の表現の工夫を自分の表現に生かしている。【ワークシートの記述】</p>
3	4	<p>9 同じ絵を選んで書いた作品を読み合う。</p> <p>10 付せんを使って交流する。</p> <p>11 自分の作品への評価を読み、考えを深める。</p> <p>12 チェックシートに2回目の回答を行い、自己の学習課題について振り返ると共に、新たな課題設定を行う。</p>	<p>○静物である絵の「次の瞬間」を感じさせるためにどのような工夫がされているかを評価しながら読ませることを繰り返すことで、表現の工夫の裏にある書き手の意図への迫り方を体得させる。</p> <p>○表現の効果が読み手に伝わっているかを振り返らせる。</p> <p>○学んだことを振り返らせ、活用する場面を想起させる。</p>	<p>イー1 表現の工夫とその効果をとらえ、内容の理解に役立てるとともに、よりよい表現について考えている。【評価表の記述】</p> <p>アー1 学習を振り返り、身に付けたい力を認識して今後の生活で役立てる場面を具体的に考えようとしている。【学習計画表・振り返りシートの記述】</p>

5-1 1/4時の指導計画

(1) 指導目標

- ・「なりきり作文」を書くための読みの観点を考えようとするができる。
- ・観点を明確にして文章を読み、表現の工夫を読み取ることができる。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法
				Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を知る。	学習 計画表	○本時の目標と学習の流れを提示する。	
	<p>○「なりきり作文」を書くための読みの観点を考えよう。</p> <p>○観点を明確にして文章を読み、表現の工夫を読み取ろう。</p>			
展 開	2 筆者になりきって北斎の「富嶽三十六景」の絵を説明するために、どのような読み方が必要なのかを考える。	ワーク シート①	○筆者になりきって文章を書くための読み方を確認し、【観点】を黒板に提示する。 【観点】 ○ 文体 ○ 多用されている言葉 ○ 特徴的な表現	アー1 「なりきり作文」を書くための読みの観点を考えようとしている。 【発言・学習計画表の記述】
	3 学習計画を知り、見通しをもつ。	学習 計画表	○学習計画表を提示する。	
	4 教材文「神奈川冲浪裏」を読んで、教材文の表現の工夫とその効果について考える。 【手順】 1)各自で黙読する。 2)グループで音読する。 3) 3つの【観点】についてグループで話し合い、蛍光ペンで色分けして線を引く。 4)担当する形式段落の線を引いた部分を短冊に書き出す。 5)全体で交流する。	ワーク シート② 蛍光ペン 黒の太い マジック	○個人で3つの【観点】に該当する部分や、意味が分からない言葉には線を引きながら読むよう指示する。 ○個人の意見を基に、3つの【観点】が表れている表現を、観点ごと色分けしてワークシート②に線をひかせる。 ○話し合いでは、役割分担をさせる。 例：司会、まとめ、清書、発表 ○形式段落ごとに担当グループを決め、短冊を黒板に貼らせる。 ○全体で短冊を【観点】ごと	イー1 観点を明確にして文章を読み、表現の工夫を読み取っている。 【ワークシート②の記述】 何度も使われている言葉に注目して読むように指示する。

	5 チェックシートに回答して、身に付けたい力について考える。		に整理する。 ○数人に発表させ、単元の学習でどんな力を付けるかという目的意識を明確にさせる。	
まとめ	6 次時の見通しをもつ。	学習 計画表	○次時の予告をする。 (準備：色ペン)	

5-1 2/4時の指導計画

(1) 指導目標

- ・目的に応じて表現の工夫や展開に違いがあることを理解することができる。
- ・教材文「神奈川沖浪裏」の表現の工夫とその効果を具体的に捉えることができる。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法
導入	1 本時の目標を知る。	学習計画表	○前時を想起させるために短冊を再配布し、黒板に貼らせた後、本時の目標と学習の流れを提示する。	Cの状況にある生徒への手立て
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ 表現の工夫や展開に注目して読もう。 ○ 表現の工夫とその効果を読み取ろう。 </div>	
展開	2 教材文の表現の工夫がもたらす効果について考え、全体で共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【観点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文体 常体・疑問文・文の長さ ○多用されている言葉 次の瞬間・富士山・波・舟・人 ○特徴的な表現 擬音語・擬態語・擬人法 視点の動き </div>	ワークシート② 学習の手引き	○前時に各グループから出された意見（短冊）を黒板で確認し、全体でその内容を共有し合う。 ○生徒が見つけた表現の工夫とその効果について整理し、学習の手引きを用いて補足説明をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○文体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習教材の文体と比較して、特徴とその効果を確認する。 ○多用されている言葉について ・「富士山」の描かれ方に擬人法が用いられていることや、メインとしての富士山という描かれ方を確認する。 ・「次の瞬間」という言葉により筆者の絵のとらえ方が伝わることや、動的な表現につながることを確認する。 ・波→舟→人という筆者の視点の動きを確認する。 ○特徴的な表現について ・状態を想像しやすくするとともに、臨場感を生むことを確認する。 </div>	ウー1 目的に応じて、表現の工夫や展開に違いがあることを理解している。 【ワークシート②の記述】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習の手引きを使って個別指導を行う。 </div>

	<p>3 読みとった表現の工夫を絵に書き込んで、その効果を確認し、「次の瞬間」のもつ効果を再確認する。</p> <p>【手順】</p> <p>1) 視点の動く順番を数字で書き込む。</p> <p>2) 擬音語・擬態語・擬人法を使った表現を書き込む。</p> <p>3) 「次の瞬間」どうなるかを箇条書きで書き出す。</p> <p>4 「なりきり作文」を書く準備をする。</p> <p>【手順】</p> <p>1) ワークシート①から1枚の絵を選ぶ。</p> <p>2) ワークシート④に「次の瞬間」どうなるかを想像して書く。</p> <p>3) 視点を動かす順番を数字で書き込む。</p> <p>4) 擬音語・擬態語・擬人法を使った表現を書き込む。</p>	<p>ワークシート③</p> <p>色ペン</p> <p>ワークシート①④</p>	<p>○絵「神奈川沖浪裏」に擬音語・擬態語・擬人法・視点の動きを書き込ませることで、視覚的に表現の工夫による効果を再認識させる。</p> <p>○ワークシート③を拡大して黒板へ掲示して記入例を示すことで、活動内容を視覚的に捉えさせる。</p> <p>○「次の瞬間」に着目させる。</p> <p>○「なりきり作文」のために選んだ絵に、ワークシート③を参考にして、書き込ませる。</p> <p>○動的な表現にするための表現の工夫をするよう心掛けさせる。</p>	<p>イー1</p> <p>教材文の表現の工夫とその効果を具体的に捉えている。</p> <p>【ワークシート②③の記述】</p> <p>「次の瞬間」の想像を生かすための擬音語や擬態語、視点の動きについてワークシート③を用いて個別指導する。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 本時の振り返りをし、自己評価をする。</p> <p>6 次時の見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○本時の学習内容を振り返らせ、学習計画表に記入させる。</p> <p>○ 次時の予告をする。</p>	

5-1 3/4時の指導計画

(1) 指導目標

- ・筆者の表現の工夫を自分の表現に生かすことができる。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況にある生徒への手立て
導 入	1 本時の目標を知る。	学習 計画表	○前時を想起させ、本時の目標と学習の流れを提示する。	
	○ 筆者の表現の工夫を自分の表現に生かそう。			
展 開	2 前時で書き込んだ表現の工夫について再確認する。	ワーク シート④	○座席の近い者同士で交流させる。	イー1 筆者の表現の工夫を自分の表現に生かしている。 【ワークシート⑤の記述】
	3 読み取った表現の工夫を生かしながら、「なりきり作文」を書く。	ワーク シート ②④⑤	○「なりきり作文」を書く際に参考にする部分を確認させる。 ○教材文の表現を根拠に、想像力を働かせて書くよう心掛けさせる。 ○条件を提示し、確認しながら書くよう指示する。 ○原稿用紙の使い方の補助資料が掲載されている教科書のページを板書する。	
	条件 ・原稿用紙の使い方に従い、300～400字で書く。 ・「次の瞬間」を想像させるように表現する。 ・3つの【観点】を表現に生かす。			
	4 自己評価をし、ワークシート⑤にPR文を書く。	学習の 手引き	○自分が書いた文章を再読させ、表現の工夫をした部分と効果について、ワークシート⑤に文章で記述させる。	前時に配布した学習の手引きを参考に、意図した効果を具体的に書くよう指示する。
ま と め	5 本時の振り返りをし、自己評価をする。	学習 計画表	○ 本時の学習内容を振り返らせ、学習計画表に自己評価を記入させる。	
	6 次時の見通しをもつ。		○ 次時の予告をする。	

5-1 4/4時の指導計画

(1) 指導目標

- ・文章の展開や表現の工夫に気付き、その効果について考えながら読むことができる。
- ・学習を振り返り、身に付けた力を認識して今後にかそうとすることができる。

(2) 展開

	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法
				Cの状況にある生徒への手立て
導入	1 本時の目標を知る。	学習計画表	○本時の目標と学習の流れを提示する。	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章の展開や表現の工夫のもつ効果に注目して読もう。 ○ 学習を振り返り、身につけた力を振り返ろう。 			
展開	2 同じ絵を選んで書いた作品を読み合う。 1) 同じ絵を選んだ者とグループを作る。 2) 評価の観点ごとに4段階で評価する。	ワークシート⑤ 評価表	○静物である絵の「次の瞬間」を感じさせるための工夫を評価しながら読ませることを繰り返すことで、表現の工夫の裏にある書き手の意図への迫り方を体得させる。 ○PR文を先に読むよう指示する。	
	3 付せんを使って交流する。 1) 評価表の観点別評価をもとに、よい所とアドバイスを具体的に付せんに記入する。 2) 付せんを交換し、感想を交流させる。	付せん	○よい所(ピンク)、アドバイス(青)を付せんに書いて渡すよう指示する。 ○評価表にある記述例を参考にさせ、具体的に記述させる。	イー1 「なりきり作文」の表現の工夫とその効果をとらえ、静物である絵の「次の瞬間」を感じる作品になっているかを考えるとともに、よりよい表現について考えている。 【評価表の記述】
	4 自分の作品への評価を読み、考えを深める。	振り返りシート	○表現の工夫による効果が読み手に伝わっているかを確認させる。	振り返りシートのアドバイスに注目させ、交流するよう働きかける。
まとめ	5 チェックシートに2回目の回答を行い、自己の学習課題について振り返り、新たな課題設定を行う。	チェックシート	○今後の学習で更に伸ばしていきたいと考える力や、身に付けたいと考える力を認識させる。 ○単元の学習を振り返り、今後生かしていく場面を想起させる。	ア-1 学習を振り返り、身に付けた力を認識して、今後の生活で役立てる場面を具体的に考えようとする事ができる。 【学習計画表・振り返りシートの記述】
	6 単元を振り返る。	学習計画表		

